第１回「第６次ニセコ町総合計画策定審議会」議事録

日　時	2023 年 4 月 25 日（火）14:00~16:00
場　所	ニセコ町民センター　研修室 1
参加者	委　員：新井 和宏、工藤 三智子、瀬戸口 剛、中江 綾、西澤 純、 芳賀 修一、長谷川 博史、松田 裕子、村上 敦（Zoom 参加）、 レナード トレーシー（Zoom 参加）、若杉 清一 事務局：山本 契太　副町長 黒瀧 敏雄　企画環境課　課長 高田 伸次　企画環境課　経営企画係長 大野 百恵　企画環境課　経営企画係主査 吉田 智也　企画環境課　経営企画係主事 切通 堅太郎　一般社団法人北海道総合研究調査会　調査部　部長 佐藤 栄一　一般社団法人北海道総合研究調査会　特別研究員 野邊 和沙　一般社団法人北海道総合研究調査会　調査部　研究員 立花 慎吾　一般社団法人北海道総合研究調査会　調査部 ※ほか傍聴 1 名

１　開会

２　副町長挨拶

【山本副町長】

現在の総合計画は、平成 24 年度から令和 5 年度の 12 年間を対象としたものであり、計画の最終年度を迎えることから、令和 6 年度から令和 17 年度までの次期計画を策定する。

過去を振り返ると、第 4 期は「小さな世界都市」、第 5 期は「環境創造都市」を標榜し、計画を進めてきた。第 6 期についてもニセコにふさわしい総合計画にしたいと思う。外部の方にニセコ町の特徴を伺うと多様性が挙げられる。さまざまな分野の方々が集まっているところがニセコ町の面白いところ。その中で作り上げられる次期計画はいろいろな意味で楽しみである。

現計画には、いろいろな要素が盛り込まれ、やや複雑になっていることから、次期計画では、関連する様々な計画の柱として、シンプルで頼りになる 12 年間の方向性を示したい。

総合計画は地方自治法の改正によって、議会の議決を経なくても良いことになったが、町民自らが決める大切な計画であることから、ニセコでは議決を経ることとしている。ぜひ忌憚のない意見をいただきたい。

３　委嘱状交付・自己紹介（委嘱状についての説明、委員・事務局自己紹介）

４　議事

①会長、副会長の選出

※会長に瀬戸口委員、副会長に長谷川委員を選出することが承認された。

②今後の進め方（スケジュール）

※事務局より説明　資料１「今後の進め方（スケジュール）」

③第６次総合計画　構成イメージ案

※事務局より説明　資料２「第６次ニセコ町総合計画　構成イメージ案」

【会長】

推計では、2035 年のニセコ町の人口はほぼ変わらず微増し、5,000 人程度と想定されている。こういった状況を考えながらご意見いただきたい。

【委員】

シンプルにするのは大変いい。その中には、骨子になる主要なものを書く、細かいところは別なところに設けるのは賛成。ただ、それを作るにあたり、アンケートが主体になっているように思った。アンケート以外にも客観的なデータや現状把握をし、そこから将来はどういう予測があり、他町村はどうなのか、いろいろなデータと将来分析をもとに計画を作った方がいい。

複雑な世の中になっているので、1 つの計画が役場の各課で対応しきれない。領域をまたぐものはどうするかは、議論の余地がある。

【会長】

人口推計は将来を見通せる一つのデータになるが、それ以外にもいろいろなデータを分析し、エビデンスを持った総合計画にしたい。総合計画は役場の各部署がよりどころにするもの。いろいろなことを書いているが、これからの時代は一つの課では対応できない。基本的な方針が決まっていれば、役場も動きやすくなる。大筋のところを議論したい。

④第５次総合計画の評価概要報告

※事務局より説明　資料３「第５次ニセコ町総合計画　評価概要報告書」

⑤R4 住民アンケート調査結果報告

※事務局より説明　資料４「第６次ニセコ町総合計画　住民アンケート調査報告書」

【会長】

総合計画はいろいろな範疇に及ぶものなので、最初から「これだ」と決めつけないで、いろいろな可能性のご意見をいただきたい。アンケートで環境への関心、交通への課題など、いろいろご意見をいただいている。アンケートも参考にしながら具体的にどういうところが大事か意見をいただきたい。

【副会長】

ニセコは世界一住みやすいまちと言えるポテンシャルがある。私は 70 か国ほど海外を旅行して住みやすい場所を探してここにたどり着いている。アンケートを見ると、環境に対する危機感

を持たれている人が多い。一方、開発を止めることはできないので、開発をすると町が豊かになるような仕組みが必要。私はそれを「住民ファースト開発」と呼んでいる。例えばホテルができたら、住民がそのホテルのプールを使える特典などをつけるといった規制やルールを作る。開発税などの導入が妥協点になると思う。

家賃が高すぎて住めないと言っている人もいるが、10 年後はもっと高くなり、ホテルはあるが人口はそこまで増えなくなる。パウダースノーがなくなれば、ホテルやコンドミニアムしかないまちになる。

「青空自主保育ぽんぽろ」などの幼児教育は素晴らしいが、小学校卒業後の教育に満足がいっている人はあまりいない。小学校 3 年生くらいから、将来は札幌に行く、海外の自分の国に帰るという話も増える。教育をもっと充実させてほしい。ニセコ町も多様性を活かしながら、例えば小中一貫校を作るとか、英語も町民センターで習っているだけでは話せるようにはならないので、子どもたちが遊ぶような場に数か国語の看板があるなど、教育に力を入れて世界一住みよいまちにしたほうがいい。

【会長】

開発と教育の話が出た。北海道の多くの町では、高校や大学に進学する際に地域を出なければならない。何とか地元に留まることができるような教育システムが必要。高校などでは ICT の活用などに取り組んでいて、将来の町を考えるうえで教育も大事な観点。

【委員】

ニセコ町には国際的なイメージを持っており、自然環境豊かでのびのびした教育、特徴ある教育を期待していたが、引っ越してきて意外と選択肢が狭いと感じている。本州では、森の幼稚園といった体験型の教育が盛んに行われている中で、自然豊かなニセコ町でそういった取り組みもあまりなく、国際的な語学の面でも、幼児センターに 2 年ほど子どもを通わせたが特色がなかった。周りを見ても高校になるとニセコ町から出ていくのが現状。もっと特徴のある教育をしてほしい。わかりやすい形で目に見えて、肌で感じられるようなものがあるといい。

「青空自主保育ぽんぽろ」を立ち上げたのも、肌で感じて、五感で感じる体験が、今後机に向かって学習する前の段階で重要なことだと思っているからであり、体験したことが応用につながり、豊かな人生につながると考えている。現在 30 家族に登録いただき、週 2 回は「みらいの森」に集まって活動している。

自主サークルのため、活動が金銭的なビジネスを生み出すものではなく、目に見えて結果が出るものでもない。後志の森林組合の方が「みらいの森」に井戸を掘ってくれたり、東屋を建てたりしてくれたことで、活動が充実してきた。

町には助成金を申請し備品を購入したが、町全体として、幼児教育という面では自主サークルレベルの活動への援助があまりない。幼児センターもいろいろと活動しているが、そういったところと一緒にできることがあってもいい。連携がうまくいっていないのが現状。

保護者と話をすると、ニセコ町は子どもに特化した施設がないとの声が多くあがる。例えばニセコ中央倉庫群には遊具が置いてあるが、隣はテレワークスペースになっていたり、町民センタ

ーにも1階に子どもが集まっているが、隣に商工会事務所があったり、お互いに配慮が必要になる。子どもに特化した施設があるといい。

【委員】

年間スケジュールについて、審議会の日程が早めに確定すると現地で参加できるのでありがたい。

策定審議会条例で25名内の委員を選出すると規定しているが、今回は12名しかいない。議員選挙も定員内で投票がなかった。まちづくりに対する町民の想いが薄れているのではないかと危機感を持っている。審議会がもっと開かれた形で町民に参加してもらえるといい。町民や議員にヒアリングし、審議会がどんな発言をしているか、事務局側の提案がどのようになっているかを聞いてもらうと、開かれた総合計画の進め方になる。

個別の話に入る前に、1回目の審議会で総合計画の目的を審議会メンバーで話した方がいい。ニセコには20以上の個別計画がある。現在の総合計画が複雑で読まれないからシンプルにするだけではなく、強い計画にしたいのか、緩い計画にしたいのか、審議会メンバーで議論する必要がある。

会社経営では、経営コンサルが経営方針を作り、それを基に経営していると、多くの日本の大企業のように新しいものが生み出されず、市場から淘汰される。今の総合計画の策定はまさにその形で進められている。強い計画にするためにはどんなことが可能なのかを議論した方がいい。例えば、総合計画は各課が何らかの個別計画を作るときによりどころにするので、審議会に各課の担当者が入り、自分の課でどんな個別計画を作っているかを2～3発言する機会があっていい。

アンケートでは、満足度が高いと評価された項目として、安心・安全な水があげられた。ニセコ町の水道の状況は、今後数年間かけてお金を投じていかないと安定供給が脅かされる状況にあるが、アンケート調査では現在は供給されているので安心となっている。長期的な視点で考えると、町がどこにリソースを割くのか、アンケート結果のみで見出すのは危険。満足度が低いと評価された企業誘致などは、商工会の会員数を見るとわかると思うが、北海道の中で人口あたりトップクラスの新しいビジネスが生まれており、大手の会社がニセコ町に移転している。普通に考えると、企業誘致等は大きな成果といえる。アンケート調査では正しく評価されていないこともある。

いくつかの個別計画を策定する際、住民への説明の機会があるが、議員の出席は少ない。最終的に議員への説明が設けられているが、審議会や町民講座の機会に、町民の代表である議員が参加するのは3名くらい。町の大きな方針を決め、意見を言える場で、議員や役場の課長、ステークホルダーが全く参加せず、個別の審議員の背景をもって要望を言うだけで、その内容が抽象化された状態で総合計画に入れられると、本来行政がすべての作業をする時によって立つべき総合計画の骨太の強固な内容が得られない。

【委員】

ニセコをどうして選んだのかを考えてほしい。私は40年ほど前にニセコ町を選び、移住した。海外を遊び歩きニセコ町がいいと思って住み始めた。水環境を守ろうと、夫と二人で水環境を守

る活動をした。

ニセコ町のグランドデザインを決めるといい。ヨーロッパは開発する時に、リゾートとして開発すべきところは開発をし、農地などの守るべきところは守る。観光資源と食糧生産とをバランスよくすべき。子育てもそうだが、足元のしっかりとしたニセコのグランドデザインを総合計画に描けたらいい。

【会長】

ニセコの環境や水があってこそニセコの産業等が成り立つ。それを大事にして、大きな方針の中でその部分が入ってくると思う。

【委員】

水環境（市街地の水道）には危機感を持っている。市街地では暫定的に近藤地区から水を持ってくるという話を聞いている。アンケートでは現れてこないこととして、近藤地区でも開発が進んでおり、いずれは水が足りなくなると感じている。市街地はなおのことで、抜本的対策が必要。

近藤地区では、高齢者は転出し、海外の方が入ってくる。この5年で10軒の区画で5軒の開発計画がある。ニセコ町内は日々工事で住みにくい環境になっている。

教育で言えば、以前すんでいた愛知県では、「森のようちえん」や「ガキ大将養成講座」、企業の社会貢献として「ふくろうの棲む森つくり」を行っている。ふくろうは生態系のピラミッドの頂点に立つ鳥で、ふくろうが棲めるというのはすべての動物が棲める場所。それがどういうものかを子どもたちと一緒に考えて整備をした。町が中心となって設立した林業会社は、商業的なことが前面に出ているが、森林はいろいろな側面があり、教育・文化的な話もあれば、景観、エネルギーという面でも大事になる。役場の各課で対応しきれないと発言したのは、そういった面も考えていかないといけないということ。

ニセコ町は当面人口が減らないが、医療も危機的だと思っている。多くの方は倶知安町の厚生病院を頼っているが、倶知安町はいずれ1万人を割ると言われており、病院を維持できなくなる可能性がある。そうするとニセコ町の医療も大きな問題になる。お金を出すだけでは解決できない。いろいろなデータを見て、町だけではなく広域で考え、いろいろな観点からの分析も必要。

【会長】

最低限の安心・安全をどう守るのか。ニセコは元々そういうことに恵まれていたがいろいろな開発や人が入れ替わることで、そこがもしかしたら失われるかもしれないという危機感がある。

【委員】

12年後の自分たちをなかなか想像できない。アンケートでは、今感じている満足・不満は聞けている。12年後には今ここにないものが生まれている可能性がある。審議会としては、今の問題は住民アンケートや、利益団体、各課に聞きたい。ここにないものは何かというと、子供、外国人、富（経済力）、雇用や人材など。教育や医療は公共事業であり、ある、ないという問題ではない。ニセコらしくというと、12年後の次の審議会のメンバーの半分に外国人がいるような、今ここにないものを想像する。

現総合計画は誰がやるべきことであるのか伝わってこない。自分がやるべきという実感が湧

くことでわかりやすくなる。他のところにない、自分たちが満足できる、住民満足度が高い町とはどんなまちか、審議会で想像すべき。

あるまちで策定委員長をやったことがあるが、ワークショップで議員のチームを作った。まちづくりや課題解決で、議員は監視のために仕事をしているかと思うが、作ることを一緒にやらないとまちづくりにならないと思い、声をかけた。そのようにワークショップも真剣にやっていることが住民に伝われば、関心を持ってもらえると思う。ただ整理して、表札をつけて、総合計画を作るのはやめるべき。他力本願な総合計画だと無責任になる。誰がやるべきかが伝わる総合計画であるべき。

【委員】

アンケート調査は、現状として住んでいる人がどのように感じているのか、フォアキャストしやすいのはわかる。時代が大きく変わろうとしている中で今後 12 年を考えていくと、SDGs など、バックキャストしなければいけない項目に関して、アンケートを基にどのように考えていくのかが重要だと思う。

アンケートの細かい話をすると、外国籍の方が 3.9%となっているが、多様性の観点からくみ取れていない少数意見がないか。p72 クロス集計では、例えば、農業の人が多ければ、農業が増え、その傾向の中で、外国籍の人はニュートラルなので、まちづくりで重視する項目として新規事業や起業の支援が多い。これは全体の中でバランスが取れているのか確認すべき。特に内外の格差、日本人の所得自体が伸びていない中で大切な視点。今後、インフレ・円安は避けられない。その中で税に関する考え方を含めてどのように考えていくのかは重要になる。

同時に新しい産業を生んでいく人づくりができるのか、ニセコを出ないと学ぶところがないというのではなく、ニセコの中で新しい起業ができるのか。宮城県女川町では、「60 歳以上の人は口出すな」という話があった。今後住んでいくのは若い人達。それにも関わらず回答者が 60 歳以上の人間が圧倒的に多いというのはアンケートとして偏っているように見えてしまう。それをどのようにクリアしていくのか議論をしていくのがこの審議会。これからの社会は、GDP を一つの目標として活動していくのではなく、GDW（国内総充実/gross domestic well-being）へと指標が変わってきている。では自分たちがどのようなことに取り組んでいくべきか。アンケートの延長線上で考えることのリスクを認識しないといけない。例えば教育の中で、英語教育の強化が 44.9%とあるが、英語ではなく、コミュニケーションの問題である。コミュニケーション能力の低下が全国的に起こっている。日本語でコミュニケーションできないと、英語能力は上がらない。こういったものを多面的に考えてアンケートを活かすことが重要。

相互扶助の地域なので、「お互い様」の文化をなくしてはいけない。除雪をしている方々に感謝が言えないような住民になってはならない。

自然環境との共生は、文化レベルになりたいと思っているので、テーマとして美意識は今後必要となっていく要素。そのうえで環境に対する立ち振る舞い、行動を住民一丸となってやりたい。

【会長】

12 年間変わってはいけないものもある。環境は 12 年間守り続けなければならないもの。変化

すべきものと変化してはいけないものを考えながら議論したい。

【委員】

50 年ほどニセコ町に住んでいるが、スキー場近くの開発が進み、曽我地区にも開発が進んできていて、一番心配なのは水である。排水が自分たちの用水に入り込んでくるのではないか。計画時は問題ないと言っているが、それが永久的なのか心配。外国人の方は農地を高く買ってくれるので、農家を辞めて高く売れればいいかと冗談で話しているが、それが現実にならないように農地を守っていかなければと思っている。開発についても、住民説明会をすることでそのまま進むのもどうかと思う。農地を守るような条例があればいいと思う。

【委員】

12 年後は想像がつかない。ニセコ町はある意味いろいろなものが豊か。自然・農業がある程度あって、観光に恵まれている。私が住んでいる川北地区は、農家の中によそ者が半分いる地区。農家のコミュニティで住まわせていただいている中で、私の仕事は外国人に関わることが多い。

地域の年齢層が上がり、草刈りの人手が足りなくなっている。地域の人が草刈りをするときは現金支給だが、相互扶助、公益が実を生む仕組みができないか。例えば草刈も、お金の新陳代謝として、地域通貨の nico を支給して、溜め込まず地域に回すのがいいと思っている。

12 年後を考えると、地方自治体の自立も考えていかないと難しいと思う。これはニセコ町だけの問題だけでない。そのために道民がまちにいることで公益が実を生む仕組みが重要だろう。

地元の方と、ツーリストのコミュニケーションの場があまりない。今年は交通機関が足りなかった。タクシーも取れないとなった時に、夜間空いている地元の方が Uber の仕組みを使った車で外国人の方をレストランに連れていくなど、コミュニケーションが実際に取れれば感じ方も違う。英語力の問題だけでない。支給を nico でもらい、地元の人は地元に還元すれば面白い。

アンケートの p33、町民の興味のあることの 1 番目が環境保全、その対極となるリゾート開発が２番目にあるのが面白い。今後なんでもそうだが、白黒つけることはできない。その中でどうやってお互いが歩み寄って、そこから発展していけるかどうか。今は社会状況が極端に白か黒になっている。まちづくり町民講座などでそのようなトピックが取り上げられると面白い。

【会長】

公益が実を生むしくみは大事である。ニセコだからできるかもしれないと感じた。

【委員】

いろいろ話を聞いて、開発の問題と大自然の問題は、規制等で止めないといけない。大自然はお金で買えない。今すぐ開発の速さを止めないと、12 年先のニセコ町が住みたくなくなるかもしれない。それを心配している。

教育について、聞いた話では、ニセコの子供たちに夢を聞くと、「夢がない」という。これは本当かどうかわからないがその状況が悲しい。若者をこの審議会に呼んだ方がいいと思う。

【会長】

12 年後のニセコがどうなっているかというキーワードをたくさんいただいた。主に環境の問題や、次世代をどう育成するかが話題になった。方法については役場で検討していただくとして、

今回のキーワードをつなげて一つの紙に整理できるか。焦点としてどこを目指していくべきかまとめ、関係性を示しながら、議論の的を絞れればいい。

【委員】

環境の分野では、地球一個分で足りる生活をしないと持たないと言われている。それはニセコ町も同じで、町の資源でやれる範囲内の開発でなければならない。それが今はオーバーしていると思う。開発はある程度必要としても、それはニセコの中で総量を考える必要がある。

ニセコ町の資源という意味では例になっていないかもしれないが、私が住んでいるエリアの人はニセコエリアのスキー場は行かないで、留寿都に行っている。地元に住んでいる人が行けないスキー場とは何か。移住してくる人はスキーを求めているが、スキーができない状況だと、今後そういう人たちが敬遠する。住宅が高騰しているので、ますます若い人が来なくなる。今まではそれ以上に魅力があったから来ていた。そういうことが一つの節目になると感じている。

【委員】

12 年後、資源も豊かにあるわけでなく、競争して手に入れるのは遠慮したい。交通アクセスの話も住宅もそうだが、「シェア」がキーワードになる。独り占めしないであるものを皆で使う。倶知安町や蘭越町と比較するものではない。

【瀬戸口会長】

今日いただいたキーワードを並べ、どういう関係かを示し、一番根底にある大事なところ、12 年後の大事なところはどこにあるかをここから見ていきたい。環境と開発のバランスが根底にあるように思う。

⑥次回の審議会（日程・内容）

【会長】

次回はワークショップで扱うテーマについて議論することになると思うので、全体のキーワードの関係を見せていただき、それから先に進むところを審議する。

⑦その他

【会長】

議員や若い人をメンバーに加えるべきという意見があったがいかがか。ワークショップには議員や若い方が参加して一緒に議論ができるのか。

【事務局】

経営会議で総合計画の話も 3～4 回していく予定である。管理職を通じてそれぞれの担当課にも実際にどういう問題があるかなど、これから聞き取りをしながら実施する。議員については、別の機会を設け、説明会もする。説明会自体も議員の考え方を引き出せるような機会も考えていきたい。メンバーは今回この形で集約させてもらっている。それ以外に職員についても聞き取りをしていくし、議員についても審議会の意見を反映して聞き取りも行っていく。ワークショップも開催し、町民講座も２回実施する。町民にもどれだけ関心をもって参加してもらえるかという

ところもあるが、そこで町民の意見を引き出したい。このメンバーだけで決めるわけではない。

【事務局】

ワークショップには議員も参加できる。是非議員に声掛けして、議員だけのグループを作りたい。今日の審議会も含めて全て公開しており、今日もラジオニセコやHPでお知らせしている。

ワークショップは2回開催で、対象はもう少し考えて行きたい。外国人向けワークショップではなく、外国人も含めて全員でやってもいい。

【会長】

次回までにキーワードをまとめて、委員の皆様と一緒に方向性を見定めていきたい。

5　閉会

以上